

私ができること

小美玉市立美野里中学校 二年

石崎

葵

「犯罪は絶対にはいけません。」

ことあることによく耳にしてきた言葉だ。学

校の先生の話、テレビのニュースでのコメン

ト、公共施設に貼ってあるポスター、両親が

ら聞く日常会話でも、よく目にしたり、耳に

してきた。だから、私は犯罪をやるわけはな

い、という根拠のない自信が根付いている。

「私はやるわけがはい、いい、いい、これをど

言われても罪を犯す人はいる。その人がやめ

てくれなくしては、私に言われたって、社会は

変えられはいよいよというのか、「犯罪のはい

明るい社会」というものに対して思う最初の

正直な印象だ。

私が、今、一番気になる犯罪は、SNSに

寄せられる心はいコメントである。私はSN

Sをよく見ている。いろいろ人がアツアツし

た動画や画像を見られるのが、とても楽しい。

何気なく動画を見て、そのコメント欄を見る

と、その人たちの情報をより深く知ることは  
できるのも、楽しい理由の一つである。  
その中で、その人を誹謗中傷するコメント  
を見ると、とても悲しくなる。批判するコメ  
ントを見るたび、そんなことはない。あはた  
の言っていることは間違っているよ。と言いた  
くびる。しかし、そんな気持ちとは裏腹に、  
一人のコメントに、確かには、そうだよ。ね。  
とまたたく間にたくさんの方がリツイートを  
する。まるで、批判のコメントを探していた

かのように、今はい声か後を絶たないのであ  
る。→何でそんな事か言えるんだろ。少し  
もやゝとする疑問が浮かぶ。それなのに、  
私一人がどうにかできることではないな。と  
毎回思うだけで終わらせてしまう自分が情けな  
くなる。

犯罪とは、刑事罰を受けることだけではな  
いと私は思う。人に対して思いやりを持ってお  
に平気で傷つけるという行為は、文字の通り  
→罪を犯す、ということだ。最近はこのS

N S の誹謗中傷によつて、社会から排除され  
た生活をしなければならぬ。たり、自ら命  
を絶つてしまつたりする事件が多いことを、  
私はニュースで知つた。考えに「け」気が重  
く「な」てい「私」が「ふ」と思ひ出したのは祖  
父の存在に「た」た。

私の祖父はよく笑つて過ごしている。た「に」  
に「こ」に「こ」して「い」る「た」け「の」よ「う」に「見」える「が」、「驚  
く「ほ」ど、「人」の「こ」とを「的」確「に」見「極」める。「私」の「周  
り」の「人」の「こ」とを「祖」父「に」話「し」て「聞」か「せ」ると、「い

つも笑いながら「それはその人が「こ」う「い」ふ  
うに「考」えて「る」ん「じ」や「ひ」か「じ」<sup>い</sup>と「答」える。「そ  
の「言」葉「は」時「々」私「を」は「と」さ「せ」る。「私」の「他」愛「も  
な「い」話「を」聞「く」た「け」で、「会」つ「た」こ「と」も「な「い」人「の  
様「子」や「性「格」を、「祖」父「は」び「<sup>い</sup>たりと言「い」当「てる  
の「に」。

もし、みんなが祖父のように、相手の考え  
を見抜ける力があつたら、平和なにはあ  
らう。と思う。祖父が持つて「い」る「そ」の「力」は、「ど」う「や  
らう「て」生「ま」れ「た」も「の」は「の」に「ら」う「か」。「そ」れ「は」、「き

？とっ心のゆとり。なのではないかと。とりついた。祖父は、どんな話でも最後までよく聞いてくれる。相手の話をしっかり受けとめ、相手の立場になつて考えて答えてくれる。それは、心のゆとりがあつてこそできる行動であり、優しさを人に伝えていける原動力なのだ。

今、知らない人と簡単に交流ができて、簡単に傷つく言葉をかけられるこの時代にくさんの人がうれしさを感ぜられる社会をつくるためには何か必要だろうか。それは、心のゆとりを一人一人が持つことである。では、そのために私は何かすればよいだろうか。それは人と関わる時に「他人事」ではなく「自分事」として捉えることだと思う。

今年の夏に行われた東京オリンピック、そのヒントを見つけた気がする。それは、日本人ボランティアが世界で称賛された「献身的な活動」である。困っている外国人選手を手厚く世話をしたのよ、私と同じ日本人である。

その姿から、私ができるボランティアをした  
いと、胸が熱くなつた。文化が違う人との関  
わり、年代の違う人との関わり、立場の違う  
人との関わりの中で、私たちが中学生でもでき  
ることを率先してやるべきである。優しさや  
思いやりの連鎖ができれば、傷つく人は減り、  
笑顔があふれる社会になるはずである。まが  
は私がか心にゆとりを持つて、人に優しくして、  
優しさの連鎖をつくつていこうという気持ち  
が高まつてきている。

今は新型コロナウイルス感染が蔓延し、人  
の行き来が制限された、厳しい状況である。  
だからこそ本当の思いやりを持つて関わるこ  
とが大切なのではないだろうか。  
「犯罪は絶対にいけません」  
私はそんなことはしない。相手の立場に立  
つて考える「心のゆとり」をもてば、人を傷  
つける行動は減らすことができるのかと思し  
ない。社会を明るくできるのは私だと信じ  
て。